

「人に優しい医療」への貢献

D_{Vx}

ディービーエックス株式会社
株主通信

2017年3月期第2四半期報告書

2016年4月1日から2016年9月30日まで

証券コード3079

D_{Vx} ディービーエックス株式会社

代表取締役社長

千葉 茂



株主の皆様へ

To Our Shareholders

既存顧客に対するサービスの拡充、新規顧客の開拓に努めた結果、前年同期比で増収、営業・経常増益となりました。

Q 当第2四半期累計期間の業績について総括をお願いします。

A 当第2四半期累計期間における医療をとりまく環境とし、2016年4月に診療報酬が改定されたことに伴い、当社の取扱商品に係る保険償還価格が、全般的に引き下げられることとなりました。このような情勢のもと、当社で

は販売代理店として営業エリアを拡大するとともに、輸入総代理店としては独自商品の販売拡大と新商材の獲得に努めることで、業容の拡大を目指してまいりました。

これらの結果、当第2四半期累計期間の売上高は171億3千2百万円（前年同期比16.1%増）となりました。営業利益は、業容拡大に伴って人件費や販売費が増加したものの、増

収効果や円高による輸入商品の利益率改善によって7億6百万円(同19.4%増)、経常利益は6億6千4百万円(同13.2%増)となりました。四半期純利益は、前年同期に投資有価証券売却益が4億7千6百万円特別利益に計上されていた影響で、同34.6%減の4億5千9百万円となりました。

Q 不整脈事業の市場の見通しと事業戦略についてお話しください。

A 不整脈をはじめとする循環器系疾患の患者さまの中心である高齢者の数は増加しており、市場は拡大傾向にあるといえます。一方で保険償還価格は近年引き下げられており、改定のある年はマイナスの影響を受ける傾向にあります。そのような流れにあって、当社は患者さまにメリットのある最新の医療機器や術式を医療現場のニーズに合わせて提案しながら業容を拡大してまいりました。そのために必要な専門知識・製品知識を有した人材が競争力の源泉です。

Q 営業担当のCDR認証制度取得を推進し、業界で最大規模の取得人員を擁していることは、どのようなメリットをもたらしているのでしょうか。

A CDR(ペースメーカー/ICD関連情報担当者)とは、植込み型心臓ペースメーカーやICD(植込み型除細動器)等についての専門的な医療機器情報や医療技術情報を提供する人を指し、所定の講習会やセミナーを受講し、米国不整脈学会関連団体が実施している国際的な検定試験に合格することを条件に一般社団法人日本不整脈心電学会が認定しています。当社は合格率9年連続1位を誇っておりますが、これは専門知識・製品知識を習得するための営業職専門研修等の体制整備と、社員の高いモチベーションによるものです。技術革新が進む中において、安全・適正に医療機器を取り扱うために高度な専門知識が求められるため、このようにして醸成された専門知識に基づく医療現場への提案型営業は引き続き当社の成長を支えるものとなります。今後もその強みを生かしたスペシャリスト集団として病気で苦しむ人々の「生命とQOL(生活の質)を守る」ことに貢献してまいります。

Q 虚血事業の市場の見通しと事業戦略についてお話しください。

米ACIST社と締結している日本での自動造影剤注入装置の独占販売契約が本年12月31日付にて終了します。それに伴う業績への影響と、来期以降の見通しを教えてください。

A 2016年8月1日に発表しましたとおり、ACIST社との独占販売契約が2016年12月31日をもって終了することとなりました。

発表にあるとおり、2016年12月31日付での同製品の独占販売契約終了が、2017年3月期第3四半期までの業績に与える影響はありません。また、同第4四半期につきましても、今

ミッション(企業理念)

● 私たちは、医療業界で患者・医師・医療関係者のニーズを絶え間なく追求し、創造的なソリューションを提供する事で、社会に貢献する集団です。

● 目標に向かって個々の力を最大限に発揮する『心』ある社員により集団を結成し、確かな未来を見据え、目的意識を明確に保持し、変化に対応する新しい企業です。

後、ACIST社および移管先会社との間で、顧客の移管方法、時期等を協議し、決定してまいります。通期業績に与える影響は軽微であります。したがって、2016年5月13日付決算短信にある同第2四半期累計期間および通期の業績予想について、変更はありません。

虚血事業においては、エキシマレーザ血管形成システム等、従来の取扱商品の販売拡大に邁進しており、新商品も順次投入することで、同製品の取扱いがなくなる影響を補完し、中長期的に業容の拡大を目指してまいります。

Q 中期的な戦略として、新商品ラインナップの拡充が挙げられています。

2016年に販売された高出力タイプのコロナリー(冠動脈治療用)カテーテル(X80/エックス エイティ)が業績に及ぼす影響はいかがでしょうか。

A 当期においては、エキシマレーザ血管形成システムに用いられる0.9mm径で高出力タイプのコロナリーカテーテル(X80)の薬事承認を取得し、同商品が今期のラインナップに加わりました。2016年5月の発売開始後販売数を伸ばしており、コロナリーカテーテルのラインナップの中心としてエキシマレーザの有用性の認知拡大に重要な役割を果たすものと期待しております。

Q 株主還元策に関する方針を含めて、株主の皆様へメッセージをお願いします。

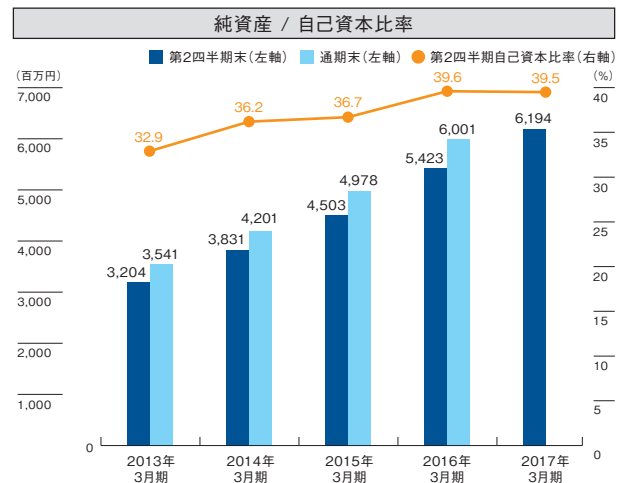
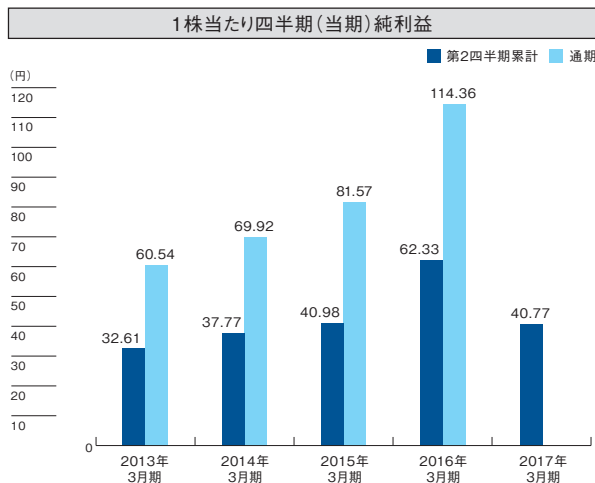
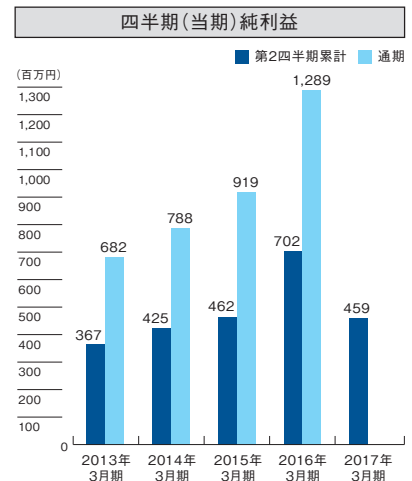
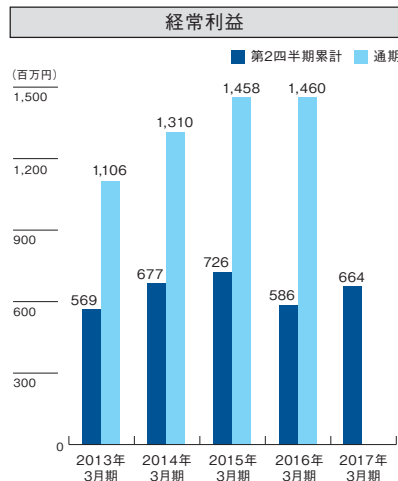
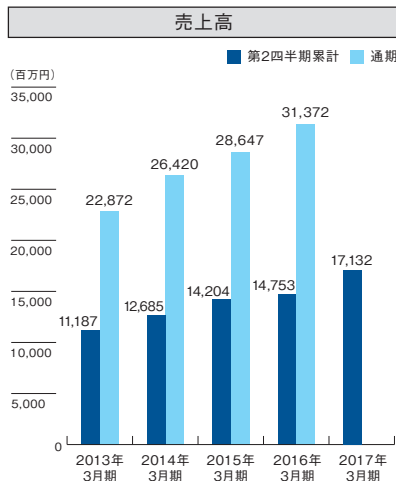
A 当社は、株主の皆様への長期的利益還元を重要政策の一つと位置づけ、継続的な安定配当を目指すとともに、業績に応じた配分と内部留保額の決定を行うことを基本方針としております。配当につきましては配当性向25%を目途として決定しております。今後も株主の皆様のご期待にお応えできるよう、全社一丸となり業容の拡大に努めてまいります。株主の皆様におかれましては、末永いご支援を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

財務ハイライト (2016年4月1日～9月30日)

当第2四半期決算のポイント

**売上高は過去最高を更新。
営業利益、経常利益ともに増益となりました。**

既存顧客の深耕と新規顧客開拓に努めた結果や、円高のプラス影響もあり、売上高（前年同期比16.1%増）、営業利益（同19.4%増）、経常利益（同13.2%増）のいずれも前年同期比2桁増収増益を達成しました。



* 当社は2014年4月1日付で、普通株式1株につき2株の割合で株式分割を行いました。2013年3月期の期首に当該株式分割が行われたと仮定し、1株当たり四半期(当期)純利益を算定しております。

ポイントの解説

1 売上高171億円

不整脈事業ではCRT-Dやアブレーションカテーテル類、検査用電極カテーテル等の主力商品の販売増、虚血事業ではエキシマレーザー血管形成システムの販売が好調に推移したこと等により前年同期比16.1%増の売上高171億3千2百万円となりました。

2 営業利益は前年同期比19.4%増

営業利益は、増収効果に加えて、前年同期に比べて円高が進行したことにより虚血事業の輸入商品の利益率が改善したこともあり、前年同期比19.4%増の7億6百万円となりました。

3 四半期純利益は減益

四半期純利益は、前年同期には投資有価証券売却益(4億7千6百万円)が特別利益に計上されていた影響により、前年同期比34.6%減の4億5千9百万円となりました。

事業セグメントの状況

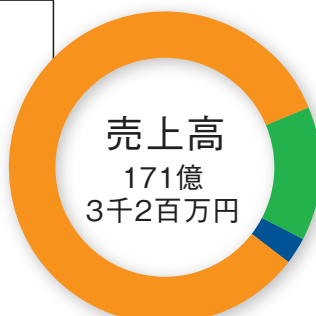
不整脈事業 Arrhythmia Business

当第2四半期累計期間実績
売上高143億1千7百万円

既存顧客に対するサービスの充実に努めるとともに、前事業年度に引き続き西日本エリアを中心として新規顧客の開拓にも注力いたしました。その結果、CRT-D(両室ペースメーカー機能付き植込み型除細動器)やアブレーション(心筋焼灼術)カテーテル類、検査用電極カテーテル等の主力商品の販売数量が増加したことから、当第2四半期累計期間の売上高は143億1千7百万円(前年同期比17.4%増)、セグメント利益は17億9千7百万円(同5.5%増)となりました。



電極カテーテル
不整脈の診断や薬効評価に欠かせない心臓電気生理検査用カテーテル、およびアブレーション(焼灼)治療用カテーテル等があります。



事業セグメント別売上高構成比

- 不整脈事業 83.6%
- 虚血事業 13.8%
- その他 2.6%

*「その他」においては、脳外科商品、放射線防護用品、書籍等を販売しております。

虚血事業

Ischemia Business

当第2四半期累計期間実績
売上高23億7千1百万円

輸入総代理店として取り扱っているエキシマレーザ血管形成システムの販売が好調に推移するとともに、円高の影響によりこれら輸入商品の利益率が改善しました。その結果、当第2四半期累計期間の売上高は23億7千1百万円(前年同期比6.5%増)、セグメント利益は7億4千万円(同18.2%増)となりました。



エキシマレーザ血管形成システム
現在日本国内において「エキシマレーザによる心内リード除去術」「エキシマレーザによる冠動脈形成術」の2つの治療に適用が認められています。

営業の概況

Operating Results

不整脈事業の販売エリア拡大、 虚血事業の独自商品の販売拡大を推進します。

不整脈事業においては西日本エリアを中心に販売エリアの拡大に努めるとともに、既存顧客に対するサービス拡充、虚血事業においてはエキシマレーザ血管形成システム等の販売拡大を推し進めております。

2017年3月期(通期)の業績予想

Outlook

引き続き主力商品や独自商品の販売拡大に努め、 増収、営業・経常増益を目指します。

なお、2016年12月31日をもってACIST社との自動造影剤注入装置の独占販売契約が終了しますが、同契約の終了が2017年3月期第3四半期までの業績に与える影響はありません。また、同第4四半期につきましても、今後、顧客の移管方法、時期等を協議し、決定してまいります。通期業績への影響は軽微であり、通期業績予想の変更はありません。

2017年3月期の業績予想

(百万円)	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益
2017年3月期	33,200	1,536	1,536	1,028
2016年3月期(実績)	31,372	1,492	1,460	1,289
増減率(%)	5.8	3.0	5.2	△20.3

当社に関する詳しい情報は、ホームページをご覧ください。

<http://www.dvx.jp/ir/index.html>

最新のIR情報を掲載しています。

dvx

検索



Front Line ―不整脈事業における主な取扱商品―

不整脈事業では、不整脈（主に脈が速くなる「頻脈」、脈が遅くなる「徐脈」、突発的に脈が飛ぶ「期外収縮」など）を治療するさまざまな医療機器を取り扱っております。

心臓ペースメーカ

房室ブロックや洞機能不全症候群などの徐脈性不整脈の治療に使用される医療機器です。最近のものは小型で、重量も20～30g程度と軽いため、植込み手術後もほとんど生活に支障はありません。各社から多種多様な製品が発売されています。

ICD（植込み型除細動器）

心室細動や心室頻拍など致死性不整脈の停止を目的とした医療機器です。突然死の原因といわれる心室細動に極めて有効だけでなく、最近は高度なペーシング機能を備えていることから、徐脈・頻脈の不整脈に対応できる「抗不整脈装置」として脚光を浴びています。

CRT-D（両室ペーシング機能付き植込み型除細動器）

ICDの機能と心不全の治療の一種である心臓再同期療法（CRT）の機能を併せ持つ医療機器です。右心房、右心室のほかに、心臓の左右の収縮するタイミングのズレを補正する左心室ペーシングを行います。

電極カテーテル

不整脈の診断や薬効評価に欠かせない心臓電気生理（EP）検査に使用するカテーテルです。あらかじめ各部位に合わせたカーブ形状がついたもの（フィックス）と可変（スティラブル）タイプがあり、サイズや電極数（4極～64極以上）のバリエーションも豊富です。

アブレーションカテーテル

頻脈性不整脈の根治療法である高周波カテーテルアブレーションに使用するカテーテルです。高周波カテーテルアブレーションは、カテーテルの先端にある電極から高周波通電を行うことにより、頻脈の原因となる部分を焼灼するものです。このため、アブレーションカテーテルには温度センサーがついており、部位の温度を常にモニタリングできる構造となっています。

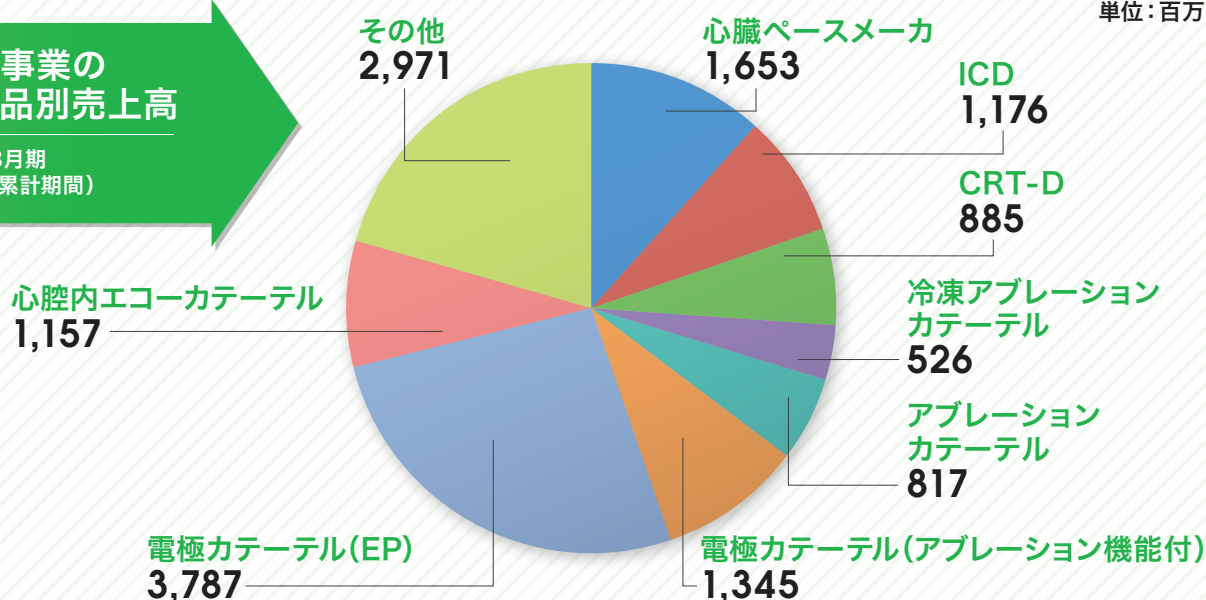
冷凍アブレーションカテーテル

薬剤抵抗性を有する再発性症候性の発作性心房細動治療を目的とした冷凍凝固法を用いたバルーンカテーテルです。バルーンが装着されたアブレーションカテーテルを心房細動のトリガーとなる肺静脈に挿入し、治療を行います。重篤な合併症の発生率が従来と比較して極めて低く、すでに欧米では高い評価がなされており、今後広く普及していくことが予測されています。

不整脈事業の 主な商品別売上高

（2017年3月期
第2四半期累計期間）

単位：百万円





会社の概要 (2016年9月30日現在)

商号	ディービエックス株式会社 (DVx Inc.)
設立	1986年4月1日(昭和61年4月1日)
資本金	3億4千4百万円
本社所在地	東京都豊島区高田2-17-22 目白中野ビル5階
代表者	代表取締役社長 千葉 茂
従業員数	270名
事業内容	医療用機器ならびに関連周辺機器の輸出入および製造販売業、修理業、リース業 医療用機器ならびに関連周辺機器の研究・開発 医療および医療用機器全般のコンサルティング業務ならびにサービスの内外提供 医療出版および市場調査を含む関連サービスの内外提供
営業所	北海道営業所 東北営業所 茨城営業所 群馬営業所 埼玉営業所 東京営業所 八王子営業所 横浜営業所 静岡営業所 沼津営業所 浜松営業所 名古屋営業所 大阪営業所 広島営業所 福山営業所 九州営業所
出張所	盛岡出張所 土浦出張所 栃木出張所 福井出張所 宮崎出張所 沖縄出張所

役員 (2016年9月30日現在)

代表取締役会長	若林 誠	社外取締役	村松 光春
代表取締役社長	千葉 茂	社外取締役	堂垣内 重晴
取締役	柴崎 浩	常勤監査役	戸田 幸子
取締役	魚住 洋二	監査役(社外)	三縄 昭男
取締役	鍋谷 正行	監査役(社外)	中村 真一
取締役	平能 直弘		

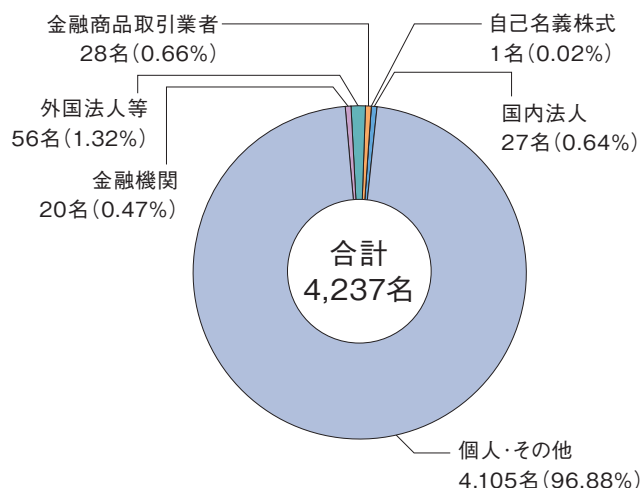
大株主 (上位7名) (2016年9月30日現在)

株主名	持株数	持株比率
株式会社MSS	3,192,800株	28.31%
若林 誠	1,692,000株	15.00%
BBH FOR FIDELITY LOW-PRICED STOCK FUND (PRINCIPAL ALL SECTOR SUBPORTFOLIO)	753,700株	6.68%
立花証券株式会社	289,900株	2.57%
STATE STREET BANK AND TRUST COMPANY 505224	289,000株	2.56%
日本マスタートラスト信託銀行株式会社(信託口)	204,300株	1.81%
ディービエックス社員持株会	195,700株	1.73%

株式の状況 (2016年9月30日現在)

発行可能株式総数	44,000,000株
発行済株式の総数	11,280,000株
株主数	4,237名

所有者別株式分布状況 (2016年9月30日現在)



株主メモ (2016年9月30日現在)

事業年度	4月1日～翌年3月31日
期末配当金受領株主確定日	3月31日
中間配当金受領株主確定日	9月30日
定時株主総会	毎年6月
株主名簿管理人	三菱UFJ信託銀行株式会社
特別口座の口座管理機関	三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部
同連絡先	〒137-8081 東京都江東区東砂七丁目10番11号 Tel. 0120-232-711 (通話料無料)
上場証券取引所	東京証券取引所(市場第一部)
公告の方法	電子公告により行う 公告掲載URL http://www.dvx.jp/ (ただし、電子公告によることができない事故、その他のやむを得ない事由が生じたときは、日本経済新聞に公告いたします。)

- (ご注意) 1. 株主様の住所変更、買取請求その他各種お手続きにつきましては、原則、口座を開設されている口座管理機関(証券会社等)で承ることとなっておりますので口座を開設されている証券会社等にお問合せください。株主名簿管理人(三菱UFJ信託銀行)ではお取り扱いできませんのでご注意ください。
2. 特別口座に記録された株式に関する各種お手続きにつきましては、三菱UFJ信託銀行が口座管理機関となっておりますので、上記特別口座の口座管理機関(三菱UFJ信託銀行)にお問合せください。なお、三菱UFJ信託銀行全国各支店にてもお取次ぎいたします。
3. 未受領の配当金につきましては、三菱UFJ信託銀行本支店でお支払いいたします。